

静岡を中心とした集荷体制の強化、物流コストの削減 (山の洲輸出物流構築協議会)

- 産直港湾・清水港の輸出拠点である静岡VFにおいて、現地ニーズに合わせた集荷・検品体制を整える。高鮮度保持の手法も検討して品質管理が難しい品目のコンテナ輸送も可能な拠点をを目指す。
- R4年度の実組で検品体制や国内流通体制が整いつつあり、難易度の高い品目×向け地への輸出の実組をさらに加速させる。

課題認識

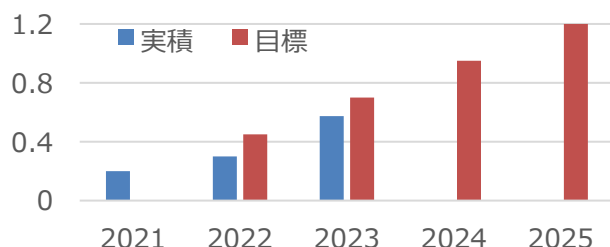
- ・ターゲット:優先国として台湾・シンガポール・マレーシア・タイ・ベトナム・香港
- ・香港マーケットに依存しない難易度の高い国向けの産地・商流形成
- ・優先国ニーズの高い品目の集荷

具体的な 実組内容

- ・山梨からの集荷ルート強化
- ・難易度の高い品目の輸出や、そのリスクカバーのための保険組成
- ・静岡VFドッグシェルターの保税蔵置所申請やタイ向け選果梱包施設登録等

成果目標

静岡VF拠点の輸出実績と目標値 (単位: 億円)



協議会メンバー

<2024年5月時点>

- ・静岡VF株式会社
- ・静岡県経済農業協同組合連合会
- ・株式会社世界市場
- ・鈴与株式会社
- ・株式会社ハマキョウレックス
- ・駿遠運送株式会社
- ・株式会社ヤマヨ物流
- ・株式会社SHILO
- ・アオキトランス株式会社

今後のスケジュール

<2024年5月時点>

- ・山梨からの台湾向け品目の産地便/市場便の物流ルート構築
- ・保険組成のための情報共有
- ・鮮度保持の手法の検証

石川県事業者の物流ルート最適化、混載等の域内連携モデル、鮮度保持 (石川県食品等輸出促進協議会)

- 石川県産の勝ち筋は、常温又は冷凍商品であり、特に水産・水産加工品も含めマーケットインで現地ニーズの高い商品を混載して輸送するモデルを検討する。
- これを達成すべく、石川県食品等輸出促進協議会で協議・課題共有を図り域内連携を促していく。

課題認識

- ・最寄りの空港・港湾の便数が少ない
- ・大ロット生産ができる生産者・メーカーが少なく、小ロットプレーヤーが多い
- ・少量多品目なので営業コストがかかる

勝ちパターン

- ・常温(加工食品)又は冷凍(冷凍水産品加工品)を、直貿・大ロット輸出者等が混載して地域産品の輸出を推進
- ・産地指定がありえる水産品については金沢直送で高付加価値を狙う

具体的な取組内容

- ①最適な大ロット物流ルートの確立
- ②域内の大ロットプレーヤー商品への相乗りなどによる域内連携モデルの確立
- ③産地指定の高鮮度輸出のニーズ検証

協議会の主要メンバー

＜2024年5月時点＞

- ・一般社団法人石川県食品協会
- ・株式会社スギヨ
- ・株式会社ヤマト醤油味噌
- ・北陸製菓株式会社
- ・株式会社KKI
- ・羽二重豆腐株式会社
- ・株式会社六星
- ・小松水産株式会社
- ・株式会社横山商会
- ・上田運輸株式会社 等

成果目標

	R4実績	R5実績	R6目標
①大ロット海上	10億円	8.5億円	10億円*
②混載・海上	—	—	0.5億円
③空輸	0.5億円	0.2億円	0.5億円

*ALPS処理水問題等の状況御を踏まえ目標値は随時更新予定

○協議会メンバー

- ・代表企業 (株)萬来トレーディングコンサルタント
- ・メンバー 辻製油(株)、ミナミ産業(株)、(株)宮崎本店、(株)松治郎の舗、(株)まるゑい



ミナミ産業

株式会社
宮崎本店辻製油株式会社
きれい与健康研究所

○課題

中部地区の輸出は工業製品の輸出がメインで、農産品や食品の輸出は非常に少ない。
処理水問題で中国向けの輸出が停止。新たな需要国の開拓が必要

取り組み

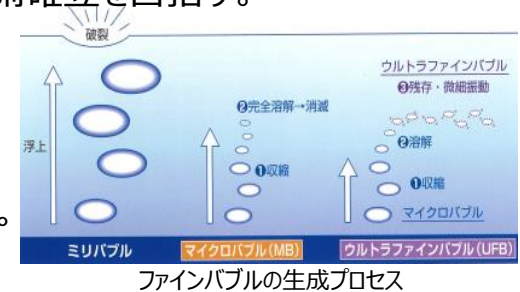
- ①地域インフラを活用した輸出実証を実施し、地域の農産品や食品の輸出促進を目指す。
- ②研究機関とも連携して窒素UFB技術を活用し高品質で長期保存可能な加工技術確立を目指す。
食×テクノロジーで日本製品の輸出競争力を強化する。
- ③インドなどの新たな需要が見込める国への輸出促進を目指す。

UFBとは？

UFB(ウルトラファインバブル)は粒径が1 μ m(1mmの1/1000)以下の微細な気泡です。

期待される効果

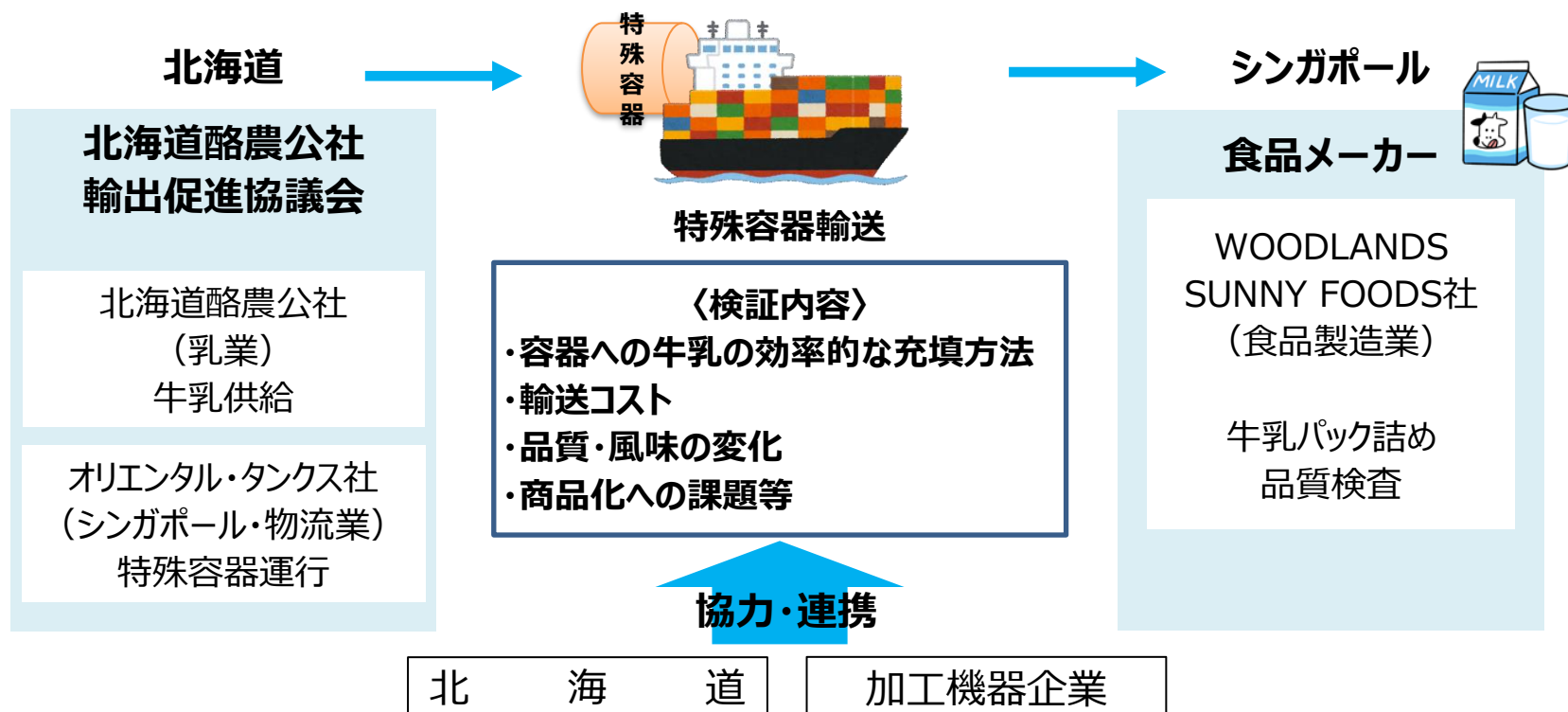
- ①飲料に応用することで、色調、風味の優れた(劣化が少ない)製品を得ることが出来る。
- ②醤油などの酸化を抑制して、タレ・つゆの変色を抑制する。
- ③好気性微生物の増殖を抑えることができる。
- ④機器、設備の洗浄時に、洗剤や薬品の使用を減らすことができる。
- ⑤油に含まれる溶存酸素を減少させて、加熱時の劣化を抑制する。



UFB技術を用いたアボカドの変色実験
(右側がUFB水使用)

特殊容器を用いたチルド牛乳の大量輸送実証 (北海道酪農公社輸出促進協議会)

- 牛乳本来の食味や風味が際立つ品質の高い道産チルド牛乳を、特殊容器を用いてシンガポールまで大量輸送する実証試験を行う。
- 実証では、特殊容器への充填、輸送、シンガポールの食品メーカーでパック詰めするまでの工程に取り組み、輸送コストや品質、商品化に向けた課題等を検証する。
- 特殊容器の活用により、国内流通と遜色のない風味等を維持したチルド牛乳の大量輸送と賞味期限の大幅な延長が期待される。



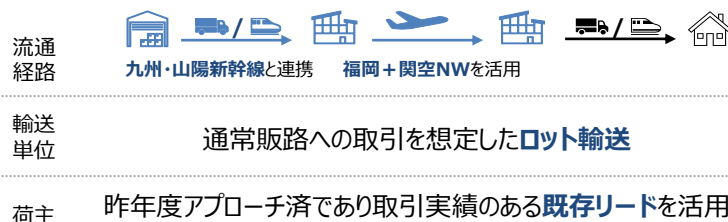
北海道産のチルド牛乳の輸出拡大に向けて、関係者と様々な角度から検証を行い、新たな輸出物流の事業化に向けた検討を推進

協議会代表企業：九州旅客鉄道(株)

- 昨年度は、鹿児島県産品（鮮魚ほか）について、新幹線を活用（鹿児島-福岡）したRail & Airの高速輸送物流ネットワークの実証を行い、リードタイムの短縮、輸出先での鮮度維持を実現した。
- 続く今年度は大阪まで延ばし、かつ大ロットでの輸送実証を行うことで、輸送コストの削減と西日本一帯における新幹線輸出物流の構築を目指す。

検討項目：	生産	物流体制				販売
	水揚げ・加工	ファーストワンマイル	新幹線輸送	駅→空港輸送	航空輸送	現地卸
現時点の課題	- 加工・出荷時間の前倒し・効率化 「珍しい魚」・「鹿児島ならではの魚」の取扱強化	- 複数荷主参画可能な、卸売市場～駅間輸送体制の確立 - 輸送価格の低廉化	- 車販準備室輸送による荷量制約の解消 - 利用可能ダイヤ拡充リードタイム短縮 - 輸送品質の向上	複数荷主参画可能な、駅～空港間輸送体制の確立	- 福岡空港の航空便ダイヤの制約 - 搬入カット時間の後倒し・効率化	- ニーズがある買い手の開拓 - 高鮮度水産品の認知・ブランド力向上 - 卸1社の営業力依存の輸送量制約
本年度以降に必要な取組	- 加工体制の構築・安定量の確保 - 地方市場関係者の参画促進	- 複数生産者の共同配送便を設定し参画事業者の裾野を拡大 1回あたりの輸送量拡大	- より大規模な輸送に向けた台車活用等の検討 - 温度管理(モニタリング)の実施	複数荷主の共同配送便を設定し、参画事業者のさらなる裾野拡大	- 関西国際空港発着便の活用による輸出エリアやダイヤ拡大 - より効率的な輸送に向けた情報連携・安定出荷	- 販売先の拡大に向けた継続的な営業体制の確立 - ブランド化に向けた継続的なプロモーション

実証概要



検証ポイント

- ・輸送リードタイムの削減 50h → 26h
- ・CO2排出量の削減 108kg-CO2 → 46kg-CO2
- ・輸送コストの削減 4,300円/個 → 3,900円/個



協議会代表企業 リーテイルブランディング株式会社

協議会
主要メンバー



株式会社みずほ銀行

RBMyanmar Co.,Ltd

課題:現状は国内輸送（東京or北海道）一時保管・海上輸送と国内の無駄なコスト発生

都道府県主導の戦略的育成商材を輸出対象

サプライヤー近郊の港湾活用によるコスト低減の実現

コストや環境負荷削減を考慮した最適な輸出経路の構築

生産地から現地到着までの**品質を保持**

その過程における日数や温度管理の検証による**持続可能な輸出の実現**

成果目標

- ① 持続的な輸出による農林水産物業界への貢献
- ② 地方港湾の有効活用に伴う近隣エリアの経済活性化に寄与
- ③ 環境のための農林水産物×SDGs ビジネスモデル構築